2023 年 7 月 JICA　月次レポート

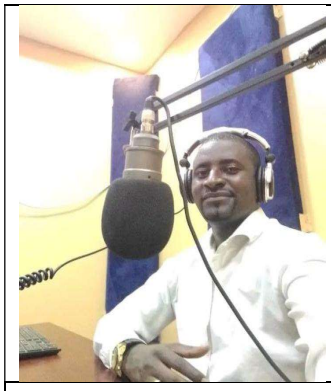
生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

<活動状況>

1. ラジオトークショーの実施
2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）
4. 第 5 回オンライン会議の実施

1. ラジオトークショーの実施

ムベンデ県では 7 月 24 日にチバリンガ準郡の Luna FM より 1 時間のラジオトークショーを実施し、女子だけでなく男子も含めた子どもたちの性と生殖に関して、各自の役割を再認識するように地域住民に呼びかけた。また、多くの宗教指導者たちが性と生殖に関する情報へのアクセスを制限していることから、情報の共有が行われず課題が優先事項として扱われてこなかったことや、保護者や教員は年齢に相応しい情報教えていくべきであることなど、第 5 回オンライン会議においての主な学びをラジオトークショーを通しても共有した。



啓発を行うプロジェクトオフィサー

ワキソ県では 7 月 23 日 19 時～20 時に Tiger FM より 1 時間のトークショーを実施した。SORAK 代表は事業の概要やこれまでの成果を紹介し、費用対効果が高く環境にも優しい布ナプキンを活用するように奨励した。保護者や関係者に対しては、情報量の乏しさゆえに引き起こされる十代の妊娠問題を回避するためも、性と生殖に関する的確な情報を子ども達に共有していくように呼びかけた。また、代表は障がいを持つ子どもたちも考慮すべきであることも強調した。

ブタンバラ県では 7 月 20 日に Voice of Kikambwe より 1 時間のラジオトークショーを実施し、主に布ナプキンの使用、月経を適切に管理することについて、引き続き議論した。また、同日に Voice of Butende でも 1 時間のトークショーを実施し、布ナプキン作製に必要な材料を子どもたちに用意し、支援するよう保護者の協力を求めた。また、保護者や地域住民が性と生殖に関する教育を軽視することのないように、女子・男子ともに性教育を行うことが如何に重要なものであるかを提唱した。

トークショーに参加した Votu メンバー

2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県：Luna FM（1 日 6 回）
- ワキソ県： Voice Kiryagonja（1 日 10 回）
- ブタンバラ県：Voice of Butende（30 回）、Voice of Kikambwe（21 回）

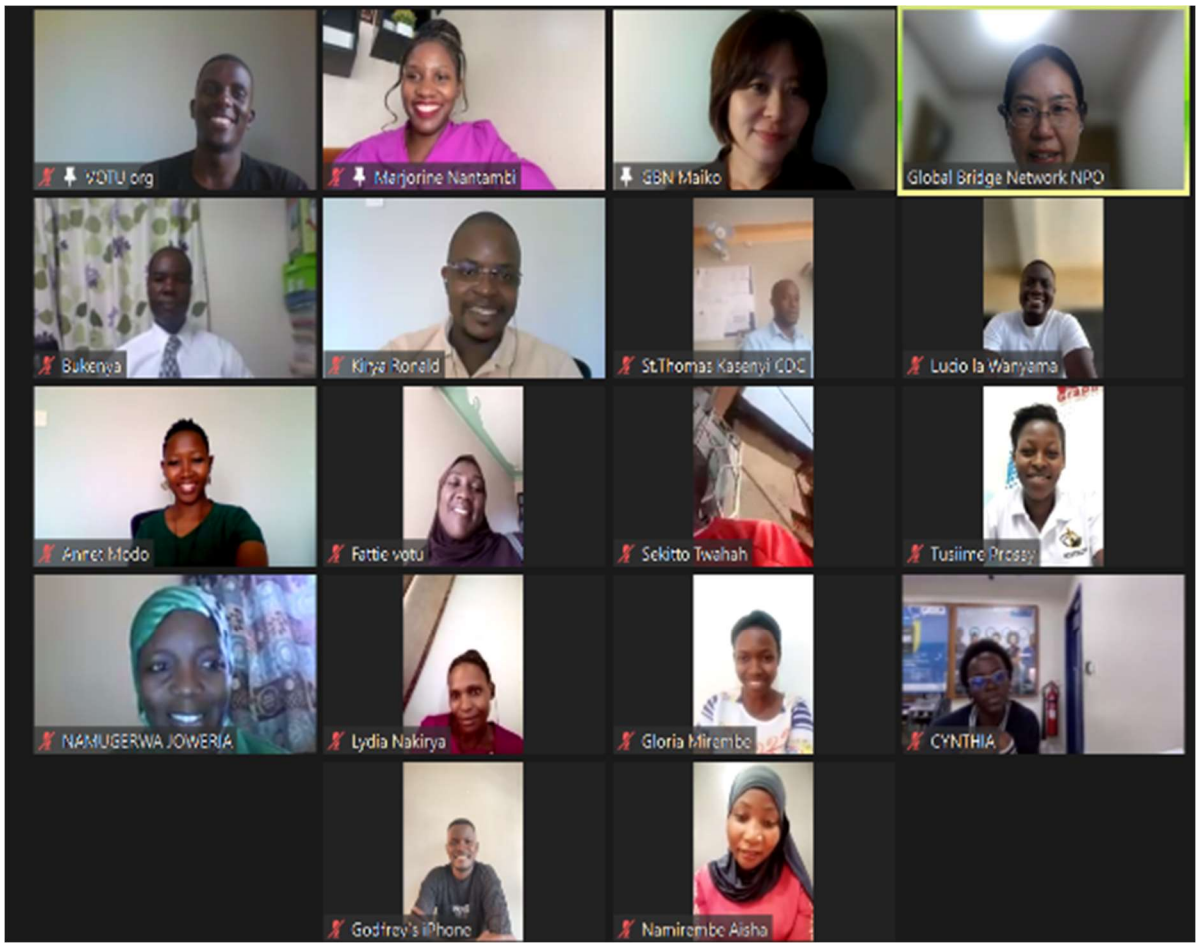
3. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）

Happy-Pad プロモーションセンターでは、多くの女性たちが布ナプキンの作製に興味を持って来ており、のべ 31 人をトレーニングし、370 枚のナプキンを生産することができた。7 月中は販売を行わなかった。また、Butende Umea 初等学校の生徒たちは学んだ知識を学校の同級生に広めることでより大きな影響を生み出していた。

Butende Umea 初等学校の生徒がプロモーションセンターで
学んだ知識を元に同級生をトレーニングしている。

4. 第 5 回オンライン会議の実施

7 月 22 日に 2 時間のオンライン会議を実施した。主な議題は、「若者の性と生殖に関して各関係者が持つ役割について」であり、宗教指導者や教員、プロジェクトディレクター、プロジェクトオフィサー、保護者など様々な団体や組織から合計 28 名が参加した。



第 5 回オンライン会議における議論の要点は以下の通りである。

a) 子どもたちへの性と生殖の教育においては、各年齢に適切な情報をもって行う必要がある。

b) 多くの宗教指導者たちが性と生殖に関する情報へのアクセスを制限しており、それが原因で情報の共有が行われてこなかった。

c) 適切な情報を元に子どもたちを教育することができる指導者を選択することは保護者にとって非常に重要である。

事業による効果的な影響

- 学校の水準が上がったとしてラジオトークショーのリスナーは事業に感謝していた。（ムベンデ県）
- オンライン会議の中で、性と生殖に関する問題に合わせて子どもたちを導いていくことが極めて重要であることに宗教指導者の一人は気が付き、今後も同様のオンライン会議への参加を仲間に勧めていくことを約束してくれた。
- オンライン会議の参加者は内容が有益であったことプロジェクトチームを高く評価した。
- ラジオトークショーのリスナーである地域住民たちは学校の退学者数の削減につながった当事業にとても感謝をしていた。(ブタンバラ県)

課題

- オンライン会議ではインターネット回線が不安定になる参加者もいたが、オンラインになるまで待機し参加をしてくれた。

教訓

- 様々な関係者の間で事業の認知度を高め、より大きな効果を出すためにも定期的にオンライン会議を実施していくべきである。

提案

- 月経時の衛生管理における情報を普及させるには様々な関係者と協力することが必須である。